

2025年度

二チキッズ下松末武保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年4月1日（火）～2026年1月31日（土）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月16日（月）
	実施方法	個人の自己評価と施設評価および、職員会議にてディスカッションを行い、保育を振り返り次年度に向けての課題を話し合った。

項目ごとの評価	
保育理念	子どもたちがおもいっきり遊び、学べるためには保育者自身が思いっきり楽しめる保育でなければならないという理念のもと、保育計画の立て方を見直し、より明確なねらいを設定することで、子どもたちの思いっきりをさらに広げていくことを意識した。
子どもの発達援助	子どもたちそれぞれの特性に応じた対応を、保護者の方々と連携を取ることで、日々の成長、発達に合わせて丁寧な保育を行ってきた。また、ミーティングで職員間の共有を図り、全職員がそれぞれの子どもたちの発達をサポートできるよう取り組んだ。
保護者に対する支援	日々、連絡帳及び送迎時のコミュニケーションにより、家庭と連携した子育てを大切にしている。また、保護者さまの様々な育児のお悩みに寄り添い、少しでも解消していただけるよう、保護者懇談の実施や、保護者同士の交流の機会を設定するなどの取り組みを行った。
保育を支える組織的基盤	安心してお子様を預けていただけるよう、また安全な園生活が提供できるよう、園内での研修、外部研修の参加に努め、適切な保育を目指し全職員で振り返りを行いながら、保育の質向上に努めている。

総評
今年度はそれぞれの子どもたちの発達に合わせた保育を意識し、ねらいを明確にした保育計画を立て、充実した活動につなげるよう取り組んだ。月齢差や発達に合わせたねらいの設定について、まだまだ課題はあり、今後も引き続き取り組んでいくことで、保育の質向上に努めたい。特性のある子どもに対する受入れについて、職員間の共有が密に行われたことで、園全体で受け入れ態勢ができていたと感じる。振り返りMTGや職員会議で、ディスカッションや他職員の意見を聞くことで、各職員の意識、保育の視野を広げていくことにもつながっている。次年度に向け、今一度マニュアルの見直し等、保育業務の標準化を行いながら、より一層職員の連携を大切に、子どもたちの安心できる園づくりを行っていきたい。